

学校概要

創立 145 周年	学校長 緒方克行	副校長 佐野圭司	学期 2 学期制	児童・生徒数 669 人
学級数 一般級: 20 個別支援級: 4		主な関係校: 潮田中学校		

学校教育目標

自分大好き 友だち大好き 潮田大好き ～学校教育の基盤:人権教育(自尊感情・関係形成・多文化共生)

- ねばり強く問題解決に取り組み、学ぶ喜びを実感できる子を育てます。(自尊感情:知)
- 規範意識をもち、自信をもって他者よりよい関係を築くことができる子を育てます。(自尊感情・関係形成:徳)
- 自らの健康に関心をもち、自分の生活に生かせる子を育てます。(自尊感情:体)
- 潮田の町や人やものとかかわり、地域と共に生きる子を育てます。(関係形成・多文化共生:公)
- 自国の伝統や文化のよさを知り、いろいろな国とのつながりを大切にすることを育てます。(多文化共生:開)

学校の特徴

□地域に支えられてきた、歴史と伝統のある学校である。保護者は、学校にバランスのよい教育を期待している。子どもたちは、地域や保護者の支援をうけつつ、安定した学校生活を送っている。
 □外国籍・外国につながる児童が約20%在籍する、国際色豊かな学校である。多文化共生を中心とした、横浜市人権センター校の委嘱をうけている。
 ■教育的な支援が必要な家庭が多い学校である。自尊感情が低く、学力の定着にも課題がある。

学校経営中期取組目標

- 子ども自らが学力を獲得し、それを定着させることにより、自尊感情を育む教育を推進します。(学力の獲得・定着による自尊感情の育成)
- ・子ども自らが学力(育成すべき資質・能力)をバランスよく獲得し、それを定着することができるよう、問題解決的な学習や教科等の関連を図った指導を推進します。(数値目標:横浜市学力学習状況調査(H27)の標準化得点(国語、算数、理科、社会)を上回ること、横浜市学力学習状況調査(H27)の生活アンケートの設問「勉強は好きですか」の数値(71%)を上回ること)
- ・学力(育成すべき資質・能力)の獲得・定着が、自尊感情を育む指導を推進します。(数値目標:横浜市学力学習状況調査(H27)の生活アンケートの設問「自分にはよいところがあると思いませんか」の数値(66%)を上回ること)

小中一貫教育の取組

潮田中	ブロック	: 潮田中学校・潮田小学校・下野谷小学校
9年間で育てる子ども像	○継続した指導を通した、児童・生徒の自尊感情の育成	
自校の具体的取組	○潮田中学校ブロック学校運営協議会を設置し、キャリア教育と児童生徒指導を軸にしなが、教育活動の改善を図る。 ・3校合同によるキャリア教育研修をもち、9年間で育成する子ども像を共有化する。 ・ブロック校の授業研究に参加し、授業交流を推進するとともに、合同の研修を実施する。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	○外部人材を積極的に活用し、個に応じた指導を推進する。 ○重点研究を中心に、問題解決的な学習について実践を通して研究を深める。	①重点研で算数を取り上げ、全職員、一人一回以上、研究授業をする。②高学年の一部教科担任制を実施する。③地域人材を生かした放課後・休日学習支援「うしおだ塾」「つるみー」を積極的に推進する。④学生サポーターやボランティア(共学舎)を積極的に導入し、学習支援をする。⑤総合・特活を中心に子どもの創意に基づく学習活動を展開させる。
豊かな心	○多くの他者とかかわる体験を通して、自尊感情や他者と関係を形成する力(コミュニケーション力)の育成を図る。	①年間を通して、たてわり活動(にこフレ活動)を実施する。②うしおだYYIに取り組み、外国につながる子どものアイデンティティの確立を図る。③ボランティア(共学舎)や学生サポーターを導入し、多くの大人とかかわることができるようにする。
健やかな体	○体育学習や学校保健委員会等の活動を通して、規則正しい生活(運動、睡眠、栄養)の定着を図る。	①学校保健委員会が菌みがきの習慣化への取組を推進する。(外部講師の招請 等)②学校説明会等で、保護者への協力を呼びかける。③体育学習や体育的行事の充実を図る。(研修の実施、特別委員会での検討 等)④委員会活動で体力向上への取り組みを企画する。(運動委員会 等)
いじめへの対応	○お互いの良さを認め合い安心して生活できる受容的な学級集団をつくる。 ○子ども一人ひとりの特性を見いだす児童理解に努める。	①毎週1回放課後に児童指導連絡会をもち、学級や学年で発生した事案を出し合い対応について職員全体で協議する。 ②児童事案に対し迅速・的確に対応できるように、児童支援専任を軸にし、体制の盤石化を図る。
特別支援教育	○特別な支援が必要な子どもへの支援の校内指導体制を充実させる。 ○外国につながる子どもへ、一人ひとりのニーズに合わせた支援を図る。	①子どもの特性を十分に把握し、それぞれに合った教材や指導法を工夫するなど、個に応じたきめ細かい指導をしていく。そのための取り出しによる個別学習支援体制を確立させる。 ②流し場やトイレなど、子どもが不便無く使用できる施設の拡充をしていく。
キャリア教育	○子どもたちが自己有用感、自己肯定感を感じ、自分の将来に夢と希望をもち、その実現に向かって能動的に取り組むことができる力の育成を図る。	①一人ひとりの子どもが将来の生き方を描けるように、地域や社会と触れあう機会を意図的にもつ。 ②日々の授業が、子どもたちの将来に繋がっているようことを意識しながら展開される。
地域連携	○共学舎(地域ボランティア)や愛育会(PTA)からの支援を受けながら、様々な学習場面や教育環境を整え、豊かな教育を推進する。	①授業にサポーターとして共学舎(地域ボランティア)の方々に入ってもらい、安全で充実した活動にする。また、子どもたちが落ち着いて学校生活を過ごせるよう、愛育会(PTA)や共学舎の方々には校内の教育環境を整えていただく。 ②地域や保護者の方々との成長と共に実感する場を作り、思いを共有する。
人材育成・組織運営	○研修・研究活動を通して、キャリアステージに応じた人材育成を図る。 ○「チーム潮田」を合い言葉に、ミドルリーダーを中心とした組織運営を充実させる。	①各種研修・研究(人権研修、学年研、重点研究、メンター研 等)を推進する。②学校外の研究活動に参加し、それを学校経営に反映できるようにする。③月に一回教務主幹会を実施し、ミドルリーダーのOJTを推進する。④週に一回児童指導連絡会を実施し、組織的な児童指導体制を充実させ、組織運営の必要性や効果が実感できるようにする。